

「キノコの山(1)」

お茶の水女子大学附属小学校教諭

お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーションセンター研究員

田中 千尋 Chihiro Tanaka

「キノコの山」というのは、キノコの形をしたチョコレート菓子の定番である。日本人なら一度は食べたことがあるだろう。しかし今回の話題は、スナック菓子ではなく本物のキノコの話である。



これが「きのこの山」形からすると、「チシオタケ」か「スジオチバタケ」か・・・いや「アキヤマタケ」が一番近いだろう。かわいしい、おいしい!

さて、私の山荘の裏庭は、別荘の管理会社の方に、年に数回草刈りをしてもらっている。格安でもらうかわりに、裏庭の隅にある企業の軽井沢保養所の芝を刈ったものを捨ててもらっている。



先日そこを見にいったら驚いた。何か白いものがポコポコ発生しているのだ。見たところ、芝はそれほど古くなく、恐らく一週間以内に投棄されたものだろう。その後にキノコが発生したことになる。



キノコの生え方には何通りかある。1本か2本だけで発生する「単生」、たくさん発生するが根元が1本ずつ独立している「群生」、何本かのキノコの根元が束になっている「束生」である。このキノコは大量に発生していたが、すべて1本ずつ根元が独立していたので、「群生」である。「大群生」と呼んでも良い。



近づいてみてすぐに「ヒトヨタケ」の仲間とわかった。漢字では「一夜茸」と書く。一晩で成長しその後「とけて」なくなってしまうという意味だ。



翌朝見に行くと、名の通りの状況になっていた。あっという間に成長し終わり、ほとんど全部とけている。まさに「キノコの山」になっていた。